

# くじょう 九条

京都のラーメン屋には、ネギ多めで注文をすると山盛になつて出される所があります。そのネギは甘くて、スープと絡み美味しいのです。京野菜の一つ、九条ネギです。平安時代には九条村で水耕栽培されていたようです。

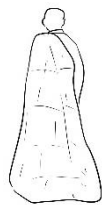


普段の過ごし方が後の全てを映ぬます  
カネハシ

九条の名が付く人物もいます。源平合戦を知る一級資料として有名な日記『玉葉』を書いた関白九条兼実です。法然聖人に深く帰依していました。九条の姓の由来も、京の九条に住まいがあつたことによります。

現在でも京都へ行くと、四条通りや十条通りと、横の通りに名前がついています。そして、縦の通りの名前を合わせると住所がわかるようになっていきます。四条通と河原町通ならば四条河原町、五条通と烏丸通ならば五条烏丸と表記します。

この条は、僧侶が身に着ける袈裟にも影響しています。布をつないだ数によって、五条袈裟、七条袈裟、九条袈裟などの種類が分けられます。五条は普段使い、七条は法要や葬儀、九条袈裟は宮廷や大法要などで着用します。



一般寺院で用いる袈裟は、五条袈裟と、七条袈裟です。

# こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# くせ 救世

一般には救世主のように「きゆうせい」と読みますが、仏教では「くせ」もしくは「ぐぜ」



と読みます。世間の人々の苦悩を救うことから、仏・菩薩を表す言葉としても用いられます。

法華経の中に

衆生被<sup>しゆじやう</sup>困厄<sup>こんやく</sup> 無量苦逼<sup>むりやうくひつ</sup>身<sup>しん</sup> 観音妙智力<sup>かんのんみやうちりき</sup> 能救世間苦<sup>のうぐせけんく</sup>

衆生、困厄を被りて、無量の苦、身に逼らんに、観音の妙智力は、能く世間の苦を救わんとあることから、救世といえは観音菩薩を表すようになりまし

た。飛鳥時代に、この法華経を解釈し、推古天皇の前で講義をした聖徳太子が、救世観音の化身として敬われるようになりまし

す。法隆寺には秘仏の救世観音像があります。明治の初めまで2

00年以上公開されていませんでしたが、日本美術に関心を持ったフェラノサが調査をすることで、久々に公開されました。

実は、このフェラノサがいなければ、明治初期の廃仏毀釈の影響で、仏像や寺院は解体されていたかもしれせん。後に、文



化財保護法の基になる法律が制定されます。